

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

話すこと・聞くこと部会 研究主題

主体的に話し、自己充実を目指す児童を育成する単元づくり

第3学年国語科学習指導案

単元名「知りたい、伝えたい、学校のよいところ」

学習材名「つたえたいことを、理由をあげて話そう わたしたちの学校じまん」(光村図書 3年下)

日時：令和5年2月7日(火) 5校時
児童：多摩市立貝取小学校 3年1組 18名
指導者：多摩市立貝取小学校主任教諭 栗原優子

1 単元の目標

- (1) 相手を見て話したり、聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。[知識及び技能](1)イ
- (2) 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成をすることができる。[思考力、判断力、表現力等]A(1)イ
- (3) 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。
[思考力、判断力、表現力等]A(1)ウ
- (4) 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら話することができる。
[知識及び技能](1)キ
- (5) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。
[知識及び技能](2)ア
- (6) 言葉がもつよさを認識するとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝えようとする。
[学びに向かう力、人間性等]

2 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) ② 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解し	① 「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A(1)イ)	① 進んで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意し、学習の見通しをもって、グループで練習し発表しようとしている。

<p>ている。((2) ア)</p> <p>③ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら話している。((1) キ)</p>	<p>② 「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A (1) ウ)</p>	
--	--	--

3 単元構想

(1) 児童について

新型コロナウイルス感染症により、様々な活動が制約された低学年を過ごしてきた3年生である。スピーチや話し合い活動もままならず、積み重ねてきたものがほとんどない状況である。しかし、元気で明るい児童が多く、新しいことにも挑戦したり、頑張って取り組んだりすることができる。ただ、最後まで話を聞くことが苦手な児童が多い。最後まで話を聞かず、一方的にそれぞれが自分の話をしてしまうことがある。また、友達に自分の意見や考えを伝えることに苦手意識をもっている児童が少なくない。一方で、友達の意見や考えを聞いて、なるほどと思う児童もいる。(実態調査参照)

今年は、国語の時間だけでなく、学級活動の時間も使いながら、司会等を輪番制で行ったりするなど、経験を積ませてきたが、新型コロナウイルス感染症により、話し合い活動が滞ってしまっている状態である。司会等の役割においては、個人差が大きく、いつの間にかできる児童が舵をとっていることも多い。また、話すことについても、児童による差が大きく、単語で話したり、話の中心がはっきりとしなかったりすることもある。

資料：国語 話すことについてのアンケート (上段 人数 下段 割合)

設問	よくできた	できた	もう少し	まだまだ
はっきりと話す	7	7	3	1
	39%	39%	17%	5%
大きな声で話す	6	5	5	2
	33%	28%	28%	11%
間をとって話す	8	5	2	3
	44%	28%	11%	17%
強調(強弱をつけて)して話す	6	7	4	1
	33%	39%	22%	5%
目線を相手に向けて話す	8	7	2	1
	44%	39%	11%	5%
姿勢よく話す	7	5	6	0
	39%	28%	33%	0%
心を込めて話す	8	4	4	2
	44%	22%	22%	11%

メモを見ないで話す	7	5	4	2
	39%	28%	22%	11%
笑顔で話す	5	4	6	3
	28%	22%	33%	17%
ちょうどいい速さで話す	11	4	2	1
	61%	22%	11%	5%

(2) 学習材について

4月に行われた離任式で、異動した多くの先生方が新しい学校の様子について話をしてくれたのだが、自分の学校との共通点、相違点が見つかるたび、目をきらきらさせながら話を聞いていた様子が見られ、他の学校の様子に興味・関心をもっていることがうかがわれた。また、3年になって社会科が始まり、自分達の住む多摩市について学習をした。その際にも、「〇〇小の校庭は多摩市でも広いんだって。」「△小ってどんなのかな。」と言った発言が多く見られた。1学期、帰国子女の児童が編入した際も、アメリカの小学校の様子を聞いたりすることで、日本の学校のよさに気付いていた。今回、自分の小学校とは全く違った環境にある小学校とオンラインでの発表会をすることによって、お互いの学校のよさに気づき、また、自分の話し方を振り返ることでより相手に伝わるように話したいという意欲を高めていきたい。

(3) 単元について

この単元は、学校のじまんしたいことは何か、まず「自分の考え」を立ち上げるところから始まる。その後、グループでじまんしたいことを一つにしぼり、それを他者に伝えるための理由や事例を集めたり、役割を分担したりしながら協力して発表する単元である。個人では認識していなかった対象の価値に気付いたり、また、協働するからこそ身に付けられる技能を習得したりできるよう、タブレット端末の活用や意図的なグループ分けなどを工夫していく。また、相手を意識して理由や事例などを挙げながら話の構成を考え、発表練習の際には、グループ間で助言し合うことで話し方をさらによりよいものにしていく。

4 研究主題に迫るために

(1) 本単元で深めていこうとしている学びの質について

まったく知らない相手に自分の伝えたいことを考えて伝わるように話す力をつけていくには、失敗を恐れずにチャレンジしていくことが大切だと考える。うまく話が伝わらなくても、その課題を振り返って修正していくこと、よりよくしていこうとすることが大切である。また、グループ内や他グループとの交流の中で、助言し、励まし合うことを重ね、それが自信となり、さらには自己充実につながっていくと考えた。

(2) 学びの質の向上を図る単元の工夫

① 単元の目標と単元を通して身に付けさせたい力を設定した意図

・学校教育におけるオンラインでの学習が広まる中、話したいことを相手に伝わるように話す力は、未来を生きる子供たちにとって必要な力だと考える。オンラインでもしっかりと聞き取ってもらえるように話す力をつけることで、思いが伝わる喜び、他者の思いを受け入れる楽しさを味わうことができる。さらには、話したり聞いたりすることが好きになるのではないかと考えた。マスクごしでの会話しかできない今、一人ひとりがしっかりと話す経験が少なくなっている。普通の交流活動がなかなかできない今だからこそ、オンラインの良さを生かした単元づくりをしていくことで、「話す・聞く」といった経験を積み、「話してよかった」、「聞いてよかった」という実感を味わわせたい。

② 主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善につながる工夫

・相手意識・目的意識が明確な課題設定の工夫

(校長による課題提起)

「他の地域の小学生に貝取小のよいところを伝えてほしい。」という校長からの依頼を聞き、目的意識・

相手意識をもたせ、社会の多摩市についての学習とのつながりを持たせながら、多摩市の学校のよいところを伝えたいという明確な課題を設定した。

(オンライン発表会)

画面越しに映る全く地域が違う知らない学校の児童に対して、どんな話の構成にすればよく伝わるか、どんな話し方の工夫をすればいいか等、試行錯誤しながら児童は主体的に活動することができると考えた。

(3) 評価活動の工夫

① 「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果をとらえる評価の工夫

・話し方の工夫の提示

発表を行うにあたり、話し方の工夫の例を提示し、どう話してよいか分からない児童への手立てとした。

・話合いの可視化・タブレット端末を用いた交流活動

タブレット端末を活用しながら、友達の話し方の良さや課題を見つけて助言をする活動を通し、直接的な対話やグループ学習ができない中でも伝え合う活動の機会をできるようにした。また、発表の様子をロイロノートで共有することで、グループ間での助言をしやすくした。

② 教師が指導の改善を図るための評価の工夫

オンラインでの交流を2回、相手の学校とすることで、児童は、1回目の発表会を振り返って自分のグループのスピーチを修正することができる。また、ロイロノートに記録しておくことで、話し方の改善の工夫や変容を教師が後から見返すことができる。

③ 児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるための評価の工夫

・ふりかえりの工夫

(タブレット端末を用いたふりかえり)

タブレット端末を活用し、発表の様子をタブレットで録画する。その映像をもとに、振り返ることで、自分達の話す様子を客観的に捉え、オンライン上でのよりよい伝え方を考える手立てとした。

・ワークシートの工夫

ふり返しカードやアドバイスカードを活用することで、児童自らが評価し合える、自分の学びを振り返り、次に生かせるようにした。また、評価のポイントをワークシートに入れることで、児童が評価しやすいようにした。

5 単元計画(全8時間)

次	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準★評価方法
	0	<p>○「他の学校の3年生に貝取小のよいところを伝えてほしい。」という校長からの依頼を聞く。</p> <p>○光和小の子にどんなことを伝えたいか、光和小のどんなところを知りたいか考える。</p> <p>○友達や上級生、学校の先生や家族、地域の人に聞いて取材したり、自分で考えたりする。(宿題)</p>	<p>○タブレットを活用し、学校のホームページやGoole earth を参考にしながら、光和小についての情報を共有できるようにする。</p> <p>○ロイロノートの共有ノートを活用し、クラス全員の伝えたいこと、知りたいことを視覚化しておく。</p> <p>○取材期間の間に、挙がってきた情報をクラス全体で共有したり、困っている児童には助言したりする。</p>	
一	1	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの「話すこと・聞くこと」の学習について振り返る。 ・みんなで集めた「学校のよいところ」を共有し、分類整理する。 ・分類整理されたものから、伝えたいよいところを選び、自分の考えをもつ。 ・伝えたいところを第3希望まで決める。 ・単元を通して付けたい力を考える。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・<u>よい話し方のポイントを3つ話し合って決める。</u> 	<p>○「よいところ」とは、その学校独自のものだけでなく、自分がよいと感じているものも含まれることを確認する。</p> <p>○タブレット端末(ロイロノート)の活用</p> <p>○分類の観点は、①場所やもの②行事③学習活動④生活とする。</p> <p>○<u>オンラインで知らない相手にどのように話したら伝わるか考えさせる。</u></p>	<p>◆主体的に学習に取り組む態度① *保留</p> <p>★発言・観察・ワークシート</p>
二	2	<p>○グループ内で、なぜ、そこがよいと思ったのか理由を伝え合う。</p> <p>○出た理由をカードに書いておき、アイデアを集めておく。</p> <p>○グループの発表のめあてを決める。</p>	<p>○前時まで書いた児童の考えをもとに、伝えたいことが同じ児童同士でグループを編成しておく。</p> <p>○理由を共有し合うことで、自分たちの考えをさらに深められるようにする。</p>	<p>◆思考・判断・表現①</p> <p>★テーブルシート・短冊</p>

		<p>○グループのめあてが <u>具体的なものになる</u> よう助言する。</p>	
3	<p>○よい話し方やスピーチの構成について学ぶ。</p>	<p>○P119「発表のれい」を聞いたり、「話し方の工夫」を提示したりして、よい話し方についてつかませる。</p> <p>○スピーチの内容が「初め・中・終わり」の構成になっていること、自分の経験をもとにしていることを確認する。</p> <p>○映像資料を提示し、資料の活用の工夫を確認する。</p> <p>○グループで、大まかな内容を決めてから、誰がどこを書くか分担させる。</p>	<p>◆知識・理解① ★発言・観察・ワークシート</p>
4	<p>○話の組み立てを考えて、発表原稿を作る。</p> <p>○必要な資料を決める。</p>	<p>○発表原稿がそろったら、グループ全体で合わせるよう助言する。</p> <p>○提示する資料を決めることを確認する。</p>	<p>◆思考・判断・表現① ◆知識・技能② ◆主体的に学習に取り組む態度①</p> <p>★観察、原稿、振り返りシート</p>
5	<p>○発表の工夫を考えて、練習をする。 (個人練習→グループ練習)</p> <p>○グループ内でのアドバイスをもとに、修正したものをタブレットで録画する。</p> <p>○グループのめあて、個人のめあてを決める。</p>	<p>○自分の思いが伝わるように、伝えたいことに合わせて、「話し方の工夫」をもとに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫できるようにする。</p> <p>○タブレット端末(ロイロノート)を活用しながら自分の話し方を振り返り、さらによりよくしていく。また、友達の話し方の良さや課題を見つけて助言</p>	<p>◆知識・技能① ◆思考・判断・表現②</p> <p>★観察、発言、原稿、振り返りシート</p>
6 (本時)	<p>○グループ同士で聞き合って助言をし合う。</p> <p>・他のグループとお互いに聞き合い、助言し合う。</p> <p>・助言をもとにもう一度グループ内で練習をする。</p>		

			<p>できるようにする。</p> <p>○友達の伝えたいことや話し方の工夫についてつかめるようにする。</p> <p>○相手意識をもって準備したり、練習したりできるようにする。</p>	
三	7	<p>○練馬区立光和小3年生とのオンライン発表会を行う。</p> <p>・質問したり、答えたりする。</p>	<p>○相手意識をもって話すよう助言する。</p> <p>○オンラインの場所は2か所に分け、Zoom を使用して交流させる。</p>	<p>◆知識・技能③</p> <p>◆思考・判断・表現②</p> <p>★観察、振り返りシート</p>
	8	<p>○発表会を振り返って、他校のグループの発表について感想を述べ合う。</p> <p>○単元の学習を振り返る。</p>		<p>◆主体的に学習に取り組む態度①</p> <p>★観察、発言、振り返りシート</p>

6 本時の指導(6/8時)

(1) 本時のねらい

話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、助言し合うことで、さらによりよい話し方を考え、練習することができる。

(2) 本時の展開

学習活動	○指導上の留意点	◆評価 ★評価方法
1. 本時の学習内容を知る。	○進度ボードで確認をする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 友達からのアドバイスをもとに、スピーチをよりよくしよう。 </div>		
2. 本時のめあてを確認する。	○相手意識や目的意識を明確にもちながら取り組めるよう、提示する。 ○友達のアドバイスを取り入れ、グループや自分の課題を意識しながら、練習に取り組めるようにする。	
3. 本時の学習の流れを知る。	○学習の流れを掲示する。 ○グループの友達へのアドバイスに活かせるよう【話し方の工夫】を掲示し、確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相手グループのめあてを確認してから、タブレットで撮ったスピーチを聞き合う。 2. 他のグループからのアドバイスをもとに、グループ全体と個人のスピーチを振り返り、修正して練習をする。 3. タブレットで録画をする。 4. <u>もう一度、タブレットで撮ったスピーチを聞き合い、修正できたか確認し合う。</u> 5. 振り返り </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【話し方名人 オンラインバージョン】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① はっきりわかる 大きな声 ② 大事なところは強調して ③ 姿勢、目線、態度 </div>	
4. グループで撮ったスピーチを聞き合い、よかった点と改善点をお互いに伝え合う。	○ロイロノートの記録の機能を活用しながら、友達の話し方の良さ、課題を見付けるよう助言する。 ○友達の話し方の良さや課題を進んで見付けてアドバイスできるようにする。アドバイスはカードに書いて渡すよう助言する。	◆知識・技能① 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。

<p>5、自分たちのスピーチの振り返りやアドバイスしてもらったことをもとに修正して練習をする。</p> <p>6、タブレットで録画する。</p> <p>7、もう一度、グループ同士で録画したものを聞き合い、修正できたか確認し合う。</p>	<p>○友達のアドバイスによって明らかになった課題を修正できるよう助言する。</p> <p>○友達のアドバイスを確認したりすることで、自分たちのスピーチを振り返り、課題に気付かせる。</p> <p>○自分たちの振り返りや他のグループからのアドバイスを生かして練習できるようにする。</p> <p>○聞き合う場を3つに分け、<u>グループ同士でしっかり聞けるようにする。</u></p>	<p>◆思考・判断・表現②</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。</p> <p>★観察、発言、原稿、振り返りシート、ロイロノート</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>概ね満足できる児童への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチの課題をグループや自分のめあてにつなげ、その達成を目指した効果的な方法を考えて練習するよう助言する。 <p>概ね満足できる状況を目指す児童への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達からのアドバイスを生かし、それぞれに合った「話し方の工夫」を示し、それに沿った練習をするよう助言する。 </div>		
	<p>○事前に把握している児童の実態に合わせ、適宜机間指導を行ったり、必要に応じて適宜全体指導を行ったりする。</p>	
<p>8、本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○友達の良かったところ、自分として良かったところ、次のオンライン発表会で生かしていきたいことなどを全体で振り返ることができるようになる。</p>	

「知りたい！伝えたい！学校のよいところ」
つたえたいことを、理由をあげて話そう わたしたちの学校じまん

(めあて) 友達からのアドバイスをもとにスピーチをよりよくしよう。

- ① 相手グループのめあてを確認してから、タブレットで撮ったスピーチを聞き合う。
- ② 他のグループからのアドバイスをもとに、グループ全体と個人のスピーチを振り返り、修正して練習をする。
- ③ タブレットで録画する。
- ④ もう一度、グループ同士で録画したものを聞き合い、修正できたか確認し合う。
- ⑤ 振り返り

【話し方名人

オンラインバージョン】

- ① はっきりわかる 大きな声
- ② 大事なところは強調して
- ③ 姿勢、目線、態度